

科目名	学年	規定時間数	担当する教員の実務経験	授業内容
言語聴覚障害概論	1	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	言語聴覚障害の入門として、摂食・嚥下障害・口腔ケア・運動障害性構音障害・認知症の障害像、評価法、治療法及び吸引について学ぶ。2年次の専門各論・演習の導入となることを目標とする。
失語症演習 I	1	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	失語症は脳の言語野の病変によって生じる言語機能の障害である。言語機能を行動面から捉える場合、ことばを聞いて理解する、発話する、文字を読む、書く、といった言語モダリティからみることができる。失語症について、基本的検査・評価技能・治療技能を実技を通して学びます。
高次脳機能障害 I	1	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	日常生活行為のほとんどが高次脳によって支えられています。高次脳機能とは何か、大脳の働きを学びます。その大脳が損傷されるとどのような問題が生じるのか、日常生活で何が困るのかを学んでいきます。
吃音	1	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	人口の1%前後の方たちが吃音だと言われています。訓練方法はまだ確立されていませんが、各訓練の有効性を確認しながら、吃音の改善を目指します。
言語聴覚障害診断学	2	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	これまでに学んだ基礎的知識及び専門知識を踏まえて再学習し、特に評価実習において重要な位置づけを占める知能検査を中心に学習していく。
失語症演習 II	2	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	失語症のリハビリテーションに関して、評価方法、問題点抽出、方針、プログラム立案、訓練の実際までを学ぶ。
高次脳機能障害 II	2	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	1年次で学んだ基礎的な知識をもとに、臨床上かかわりの深い障害についてより詳しく学ぶ。また、臨床に必要な評価・診断から治療理論と技法についても学ぶ。
運動性構音障害	2	60	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	発声発語機能のメカニズムを覚え、ディサースリア（運動性構音障害）によって生じる問題点について考え理解する。ディサースリアの評価方法・訓練方法について学ぶ。
総合検査法 I	2	30	言語聴覚士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	失語症、構音障害、嚥下障害、発達障害、聴覚障害などの評価法について、具体的な検査の方法を含めて学ぶ。
	計	300		